



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2015 年 11 月 10 日

氏名： 窪田 薫

所属機関・職名：東京大学大気海洋研究所国際沿岸研究センター・特任研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp.361 Southern African Climates
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2015 年 11 月 3 日 ~ 2015 年 11 月 5 日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 <p>今回のプレクルーズトレーニングでは、IODP 第 361 次航海が対象とするアフリカ大陸南東部の堆積物に類似した堆積物コアをトレーニング用に使用させていただき、VCD (コア観察) やスミアスライド作成について確認を行った。トレーニング用に観察した堆積物コアの一つは DSDP Leg 25 Site 242 で得られた非常に古いコアだったものの、IODP 第 361 次航海でまさに同じ海域を再度掘る予定ということで、たいへん貴重な体験となった。また座学で IODP の仕組みや、乗船中に得られる堆積物コアのフロー (特に、各乗船者が担当する一連の手順と堆積物サンプリングについて) についても学び、これまでに知らなかった非常に多くの知識を得た。またそれとは別に、やや高緯度側のデルカノ海台で得られた堆積物コア (KH10-7 DCR-1PC) についても観察を行った。インド洋中～高緯度の堆積物を幅広く観察することで、IODP 第 361 次航海で得られる予定の鮮新世以降の炭酸塩質 (氷期には珪質の堆積物も期待される) の遠洋性堆積物の様相について幅広く学ぶことができた。今後は、主に先行研究のレビューを通じて当該海域の堆積学的専門知識を増強し、来年 2～3 月の乗船に備える予定である。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2015 年 11 月 10 日

氏名： 山根 雅子

所属機関・職名：海洋研究開発機構・ポスドク研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp.361 Southern African Climates
乗船時の役割	Sedimentologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2015 年 11 月 3 日 ~ 2015 年 11 月 5 日
実施場所	高知コアセンター
実施による成果と今後の計画 <p>本プレクルーズトレーニングは、来年 1 月から行われる IODP 第 361 次航海に日本から Sedimentologist として乗船する研究者のコア記載技術の向上を目的として行われた。トレーニングの実施内容は下記の通りであり、施設見学と講義は第 357 次および第 360 次航海の乗船研究者と合同で実施された。</p> <ul style="list-style-type: none">高知コアセンターの施設見学IODP に関する講義、JR 船上でのコアフローについての説明乗船海域 (モザンビーク海峡) で掘削されたコア試料 (DSDP Leg 25 Site 242) およびその近隣 (デルカノ海台、ケルゲレン海台) で掘削されたコア試料 (KH10-7 DCR-1PC, ODP Leg 119 Site 736) の肉眼観察、スミアスライド観察、岩相名の決定 <p>今回のトレーニングでは、第 361 次航海で掘削される可能性のある様々な岩相 (nannofossil ooze, foraminifera-bearing silty clay, diatomaceous ooze) のコアを観察することができ、良い経験となった。今後は、先行研究を参考にして当該海域の理解を更に深める計画である。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。